観光客支援に向けた防災危機管理対策手法の展開
The Development of the Disaster Prevention Crisis Management towards the Tourist Support

八木 康夫
Yasuo YAGI

1. はじめに

筆者はこれまで、学術フロンティア推進事業による研究として、一貫して文化遺産や芸術作品がある場所や文化遺産を所蔵する施設周辺に所在する人々あるいは観光者を研究対象に進めてきている。すなわち、文化遺産や芸術作品の見学者と、受け入れ側としての周辺に住まう人々の関係であり、これら対象者は災害における弱者である。そこで、これまでの研究を整理しておくと、2005 年では「アンケート調査からみた地震防災に対する清水寺界隈住民の意識について」として、アンケート調査を通し、地震防災に対する清水寺界隈住民（受け入れ側の立場）の意識および住民が指摘する危険箇所を明らかにした。2006 年度では「京都市における非常時の観光客支援に向けた防災危機管理対策手法の展開」として、京都の清水寺界隈における地震災害時や社寺仏閣・観光名所等での地震災害時やイベント時のテロ行為等による観光客避難支援の手法として、観光マップ＋ハザードマップの展開を検討した。2007 年度では、「避難所におけるプライバシーを考慮した仮設空間に関する基礎的考察」として、避難所の仮設空間におけるプライバシー確保に向け、特に視線によるプライバシーを考慮した避難所生活の向上に向けた仮設空間構成について考察を行い、概ね仮設空間形態の方向性は提示できた。本年度は、文化遺産や芸術作品の見学者（観光者）の観光と防災に関する意識調査を行い、観光マップ＋ハザードマップに必要なコンテンツの検討を行う。

2. 研究の背景と目的

現在、我が国では観光立国の実現を目指し、官民挙げて観光振興施策が強力に進められ、21 世紀の基幹産業として大きな期待が寄せられている。その理由として、経済活性化や国際相互理解等々の促進など様々な意義があり、その経済波及効果が極めて大きいことが挙げられ、観光立国を総合的かつ企画的に推進してくために 2008 年 10 月 1 日に国土交通省の外局として観光庁を設置された。また、京都市では「新京都市観光振興推進計画～ゆとり うるおい 新おこしやすプラン 21～」を策定し、5000 万人の観光客を目標に観光をこれまで以上に都市経営上の重要な政策として位置付けている。図-1 には観光客数の推移を示す。京都市東山区は世界遺産である清水寺をはじめとして多数の文化遺産に恵まれ、国宝、重要文化財等が 300 件以上と京都市全体の 2 割近くを占める。また、伝統的建造物群保存地区の産寧坂や歴史的景観保全修景地区である祇園縄手等の町並みを有しており、東山区各地に数多くの観光客が訪れている。一方このよ

うな背景にあって我が国は、地理的・自然的条件から地震などによる災害が発生しやすい国土であり、京都市もその例外ではない。各行政庁では地域防災計画の立案や防災マップ等で情報を公開しているが、それらの認知度やコンテンツにも限度がある。また、世界的にもこのように多くの人が集まる観光地を狙ったテロが起こっており、我が国でも対策を行う必要があると考えられる。

このような背景から、そこで生活している住民にしかわからない情報を地理や地域に詳しくない観光客に、災害やテロに巻き込まれた際に、どのようにその情報を伝えるか等々の情報表現およびコンテンツの整理が必要となる。

そこで本研究では、図-2 に示すように京都における観光客訪問地としてリピート率の最も高い清水寺界隈において、観光客に対するヒアリング調査を行い、観光客が求める観光情報と防災情報を組み合わせたマップを作成するための基礎的知見を得ることを目的とする。

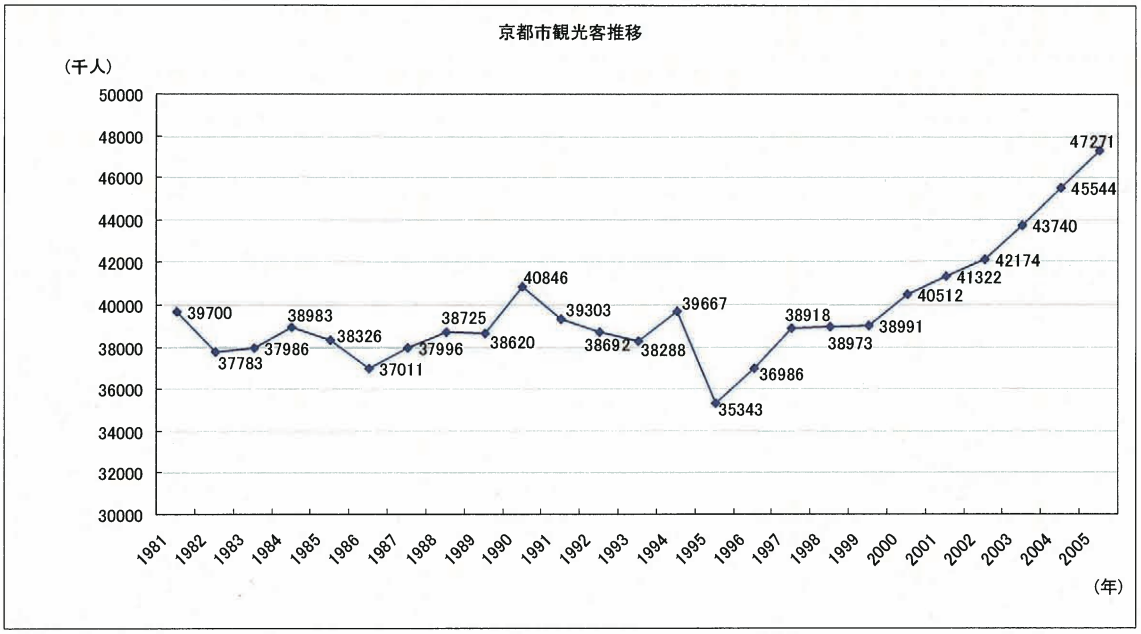


図-1　京都市を訪れる観光客数の推移

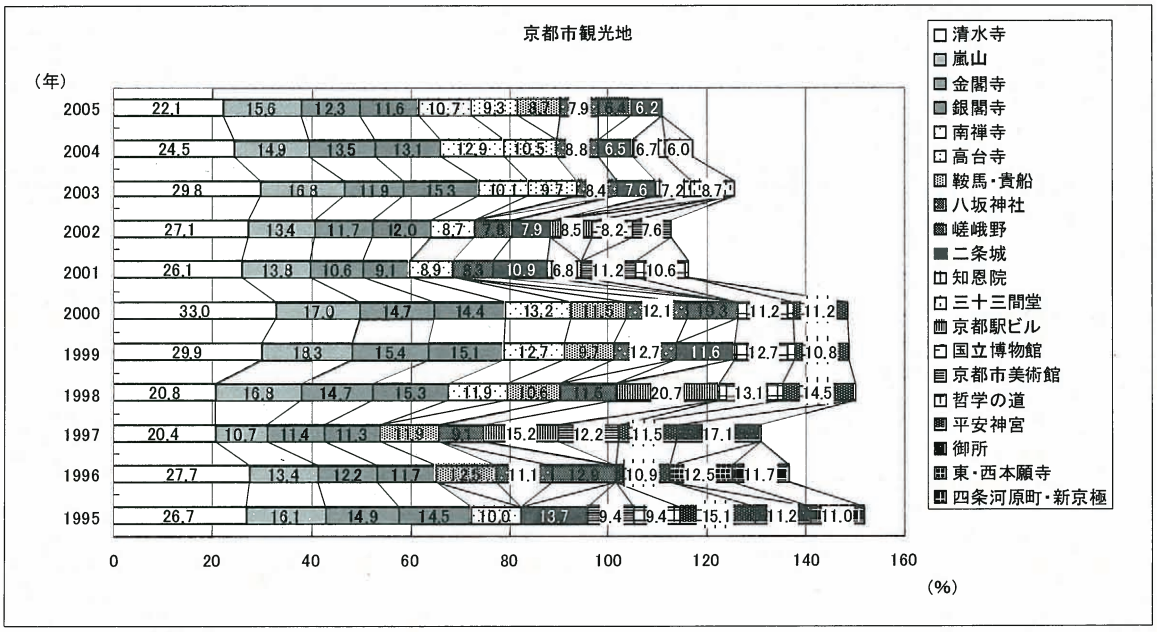


図-2　京都市の観光地別観光者数の割合

3. 観光マップ及び防災ハザードマップについて

図-3 に示すように、観光マップはあらゆる種類のものが多く発行されており、近年は目的別に応じたマップが発行される傾向にある。また、自分で書き込むことによって、オリジナルなマップに仕上げるタイプがある。次に水害に対するハザードマップは多くの地域で提示されているが、地震災害に関してのハザードマップを提示している行政は少ない。

図-3 観光マップ

4. 観光マップ(日常時)に避難のためのハザードマップ(非常時)の導入について

観光地を訪れる観光客の多くは、その目的を果たすため事前に観光案内書や観光マップ等を頼りに観光地を訪れ、また、観光地においてもそれらを片手に名所や旧跡を訪れている。図-4 に示すように万一観光客が観光地において地震災害やテロ行為等に遭遇した場合、実際にどこに避難をすれば良いのか、またどのようなルートで目的地に向かうのが良いのか等々の情報が必要となる。

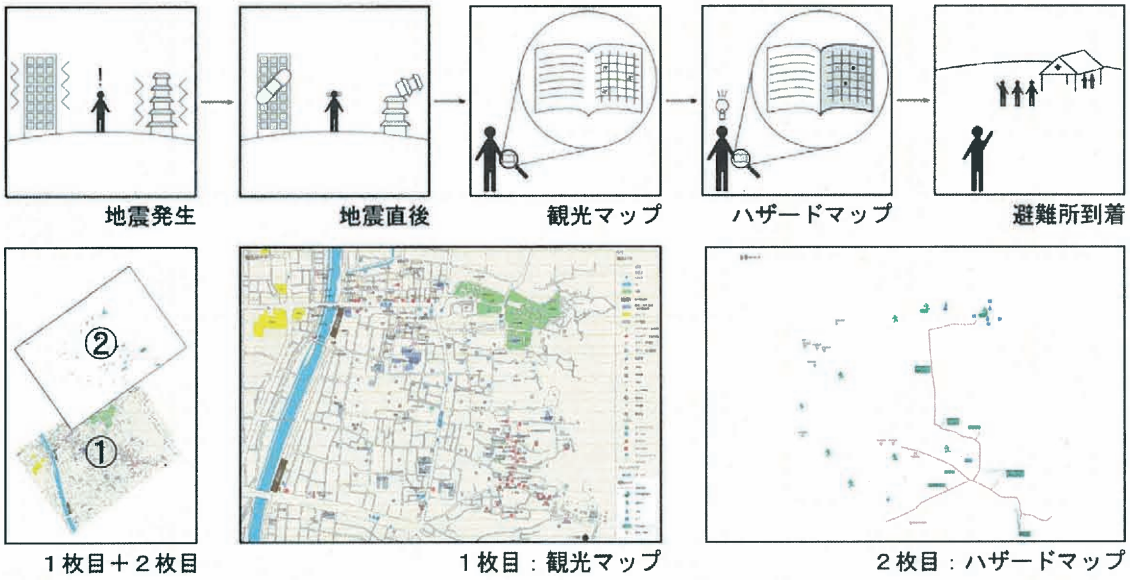


図-4 観光＋ハザードマップのイメージ

5. 研究方法

文化遺産や芸術作品の見学者(観光者)の観光と防災に関する意識調査としてヒアリング調査を行う。ヒアリング項目については以下の通りである。

A.観光マップに関する設問

a.旅行に来る前に何を参考にしたか、b.どのような観光マップを利用しているか、c.b.を選んだ理由、d.どのような観光マップが必要か

B.防災の意識に関する設問

a.普段の生活で災害時のために注意していること、b.旅行中に災害が起こることを考えるか、c.旅行中に災害のために気をつけていること、d.旅行中に地震が起きたら、e.観光中に危険だと感じた場所

C.観光+防災マップに関する設問

a.観光マップに防災情報がセットされたマップが必要か、b.マップコンテンツ(①観光名所⇔駅、②観光名所⇔観光名所、③通り⇔通り、④観光マップ＋防災情報、⑤QRコード＋危険箇所写真)、c.どのような情報が必要か、d.入手場所、e.いくらなら購入するか。

写真-1　調査風景

表-1　回答者属性(男女別)

性別	回答数	回答構成比率
男性	21	28.4%
女性	53	71.6%
合計	74	100.0%

表-2　回答者属性(年代別)

年代	回答数	回答構成比率
10代	26	35.1%
20代	19	25.7%
30代	5	6.8%
40代	4	5.4%
50代	3	4.1%
60代以上	17	23.0%
合計	74	100.0%

表-3　回答者属性(地域別)

地域	回答数	回答構成比率
北海道	4	5.4%
東北	2	2.7%
関東	28	37.8%
中部	3	4.1%
近畿	21	28.4%
中国	2	2.7%
四国	0	0.0%
九州	13	17.6%
海外	1	1.4%
合計	74	100.0%

6. 調査結果

6-1 調査対象者および属性

清水寺周辺を訪れた74人の観光客を対象とした。

表-1に示すように、男性が21人(28.4%)、女性が53人(71.6%)であった。表-2に示すように年代別では、10代が26人(35.1%)と最も多く、次いで20代が19人(25.7%)、60代以上が17人(23.0%)であった。表-3に示すように地域別については、関東が28人(35.1%)と最も多く、次いで近畿が21人(28.4%)、九州が13人(17.6%)であった。なお、海外は中国からの観光者であった。

6-2 観光マップについて

旅行に来る前に何を参考にしたかという設問について、男性は「情報誌」が10人(47.6%)、次いで「インターネット」が7人(33.3%)であった。女性は「情報誌」が32人(60.3%)と最も多く、次いで「インターネット」が13人(24.5%)であった(図-5)。次に観光中に観光マップを利用しているかという設問について「利用している」が男性は19人(90.5%)、女性が28人(52.8%)であった(図-6)。また、なぜその観光マップを選んだのかについては、男性は「見やすい」「写真が多い」がそれぞれ7人(36.8%)と最も多く、女性は「写真が多い」が9人(32.1%)、次いで「情報量が多い」「自分の欲しい情報がある」がそれぞれ6人(21.4%)であった(図-7)。

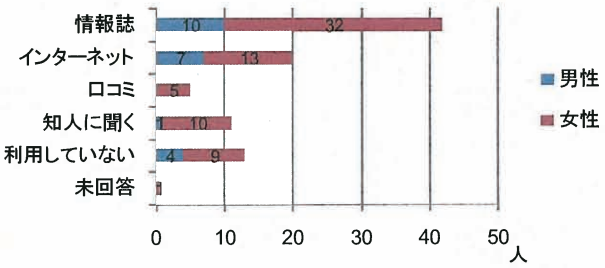


図-5　旅行に来る前に参考にしたもの

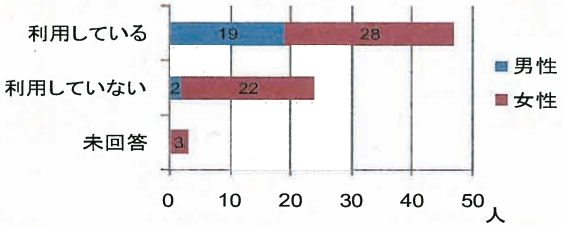


図-6 観光中観光マップを利用しているか

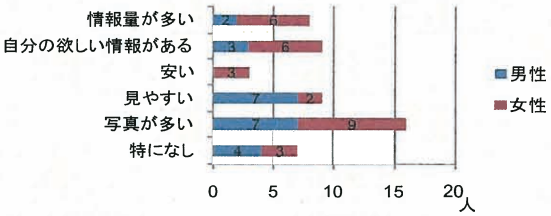


図-7 利用しているマップを選んだ理由

6-3 防災意識について

旅行中に災害が起こることを考えたことがあるかという設問について「ある」が 31 人(41.9%)であった(図-8)。旅行中に災害のために気をつけていることがあるかという設問で、その内容に関して「貴重品を持ち歩く」が 30 人(40.5%)であった(図-9)。

観光中に危険だと感じた場所があったかという設問について「ある」「特になし」がともに 33 人(44.6%)であった(図-10)。今地震が(旅行中に災害が)起きたらどうするかという設問について「広い場所に避難する」が 35 人(47.3%)であった(図-11)。

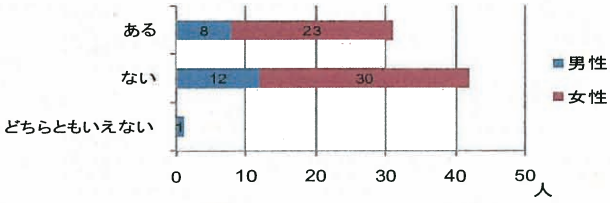


図-8 旅行中に災害が起こることを考えたことがあるか

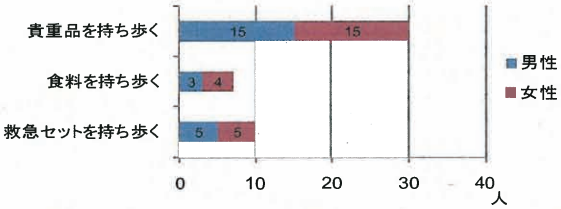


図-9 旅行中に災害のために気をつけていること

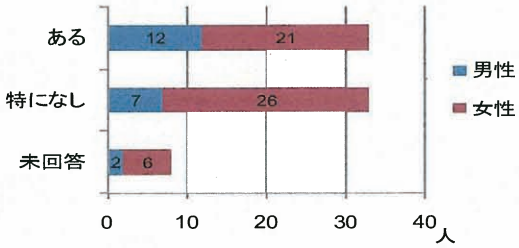


図-10 観光中に危険だと感じた場所があったか

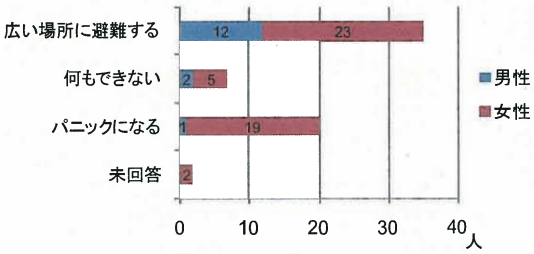


図-11 今地震が起きたらどうするか

6-4 観光+防災マップについて

観光マップに災害時に必要な情報がセットされたマップが必要かという設問について「必要」との回答が 65 人(87.8%)であった(図-12)。

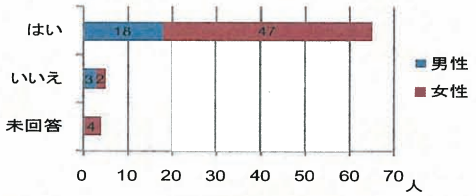


図-12 観光＋防災マップが必要か

①観光名所⇔駅(地図上の観光名所と駅の間の徒歩時間を表記したマップ)について

「○」が 54 人(73.0%)、「×」が 20 人(27.0%)であった(図-13)。

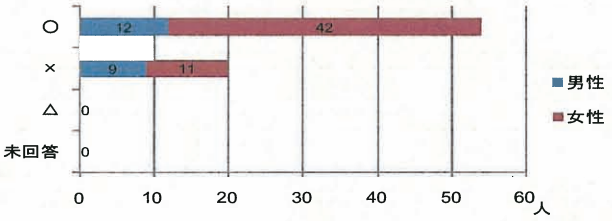
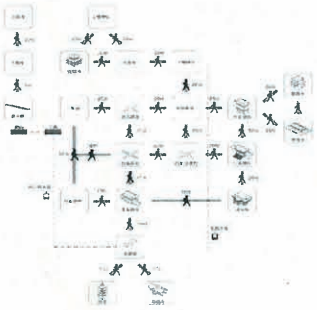


図-13 観光名所⇔駅

②観光名所⇔観光名所(観光名所間の徒歩時間を表記したマップ)

「○」が 60 人(81.1%)、「×」が 13 人(17.6%)であった(図-14)。



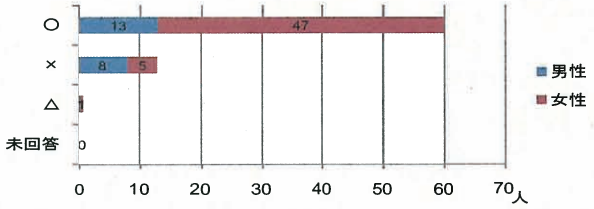
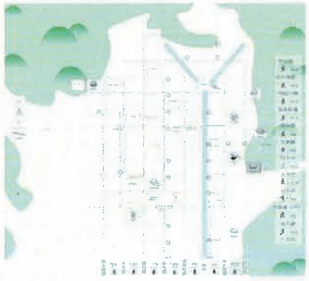


図-14 観光名所⇔観光名所

③通り⇔通り(通りと通りの間の徒歩時間を表記したマップ)

「○」が 47 人(63.5%)、「×」が 24 人(32.4%)であった(図-15)。



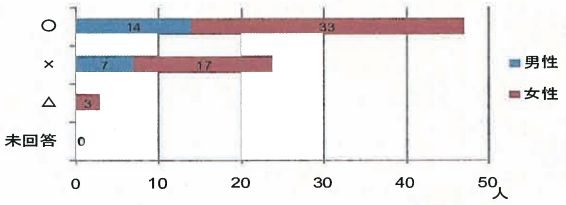


図-15 通り⇔通り

④観光マップ＋防災情報（観光マップに防災情報を付加したマップ）

「○」が 63 人（85.1%）、「×」が 7 人（9.5%）であった（図-16）。

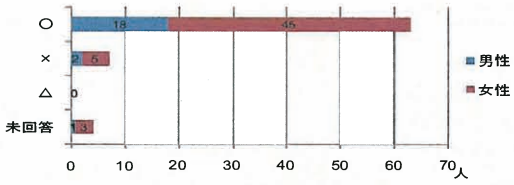
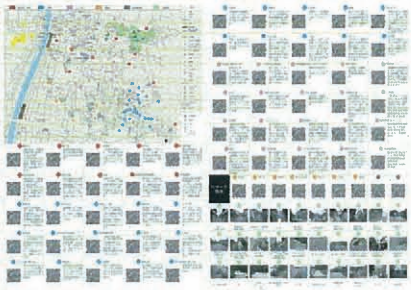


図-16　観光マップ＋防災情報

⑤QR コード＋危険箇所写真（観光地図上から QR コード・写真で情報を得られるマップ）

「○」が 50 人（67.6%）、「×」が 18 人（24.3%）であった（図-17）。



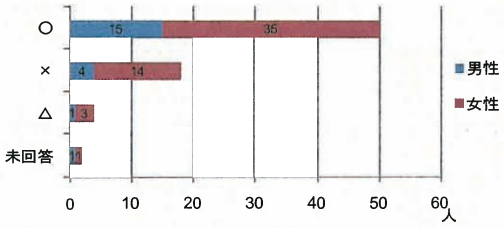


図-17　QR コード＋危険箇所写真

また、観光+防災マップに必要と思う情報に対して「避難場所」が 51 人（68.9%）と最も高く、防災情報としての「避難場所」、観光情報として「観光名所」が最も多い（図-18）。

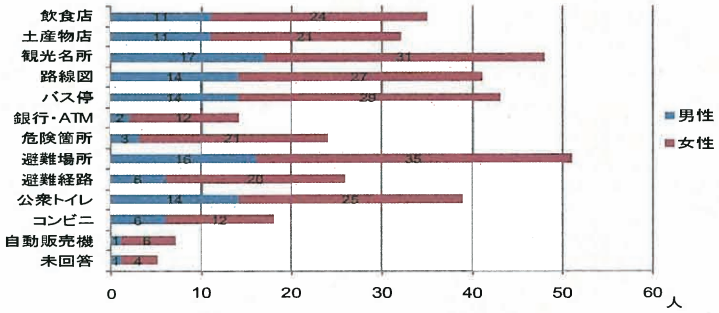


図-18　必要な情報

7. 調査結果

今年度行った、文化遺産や芸術作品の見学者（観光者）の観光と防災に関する意識調査としのヒアリング調査結果をもとに、観光＋防災マップに必要な具体的なコンテンツが明らかになった。

今後は、試作品の製作を行い、その試作品に関してアンケート調査等の市場調査を行いマップの精度を高め、文化遺産や芸術作品を見学に訪れた人たちが安心して観光できるまちづくりを考究したいと考えている。